

2022年5月号

ハノイ日本人学校 学校便り

令和4年5月4日

こころの道

Nhan hoi Thong minh Khoe manh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン



校長 明石清二

子供たちの学校

全校生の登校を開始して3週間が過ぎました。子供たちが一生懸命に学び、本気になって遊ぶ姿に学校本来のあるべき姿を強く感じます。

真新しい教科書を夢中になって読む小学部の子供たち、一言一句聞き逃すまいと集中して授業に臨む中学部の子供たち。休み時間には、学級ごとに割り振られた限られた空間ではありながらも、思い切り走り回る子供たち。意見が対立し、激論を交わす子供たち。昼食時間、お弁当に舌鼓を打つ子供たち。これこそ、正に子供たちの学校です。

オンライン授業が11か月も続く中、子供たちは大変よく頑張りました。長い時間、へこたれずに耐え困難を乗り越えた立派な子供たちです。このような経験を更なる成長のための大きなエネルギーに変えていくことができるよう、私たち教職員も全力で努めてまいります。

今年は修学旅行やスクールフェスティバル、運動会など安全に気を付けながら楽しい思い出をたくさん作ってまいります。保護者の皆様には、本当に長い間、深い御理解と多大なる御協力を賜り、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

江戸しぐさ

18世紀初頭の江戸は、人口約100万人。江戸では、お互いに気を遣って生活するのが「粋」だと考えていたようです。どのようにしたらお互いに居心地よく暮らせるのかを考え、生み出された「しぐさ」を校内生活にも生かしたいと考えます。

「聞き上手」は、話を聞くとき、相手の目を見て体乗り出すように聞き、うんうんとうなずくしぐさ。知っている話でも「知っている」とは言わずに興味深く聞いてあげるしぐさは、今でも通用します。

そのとおりと感じましたのは「うかつあやまり」というしぐさです。「うかつ」というのは、「うっかり」ということです。机と机の間を通過して、友だちの机の上の教科書やノートを落としてしまうことがあります。そのとき、落とした人は「ごめんなさい」と謝りますが、江戸の人たちには、落とした人だけでなく、そうさせてしまった人も謝るというしぐさがあり、それが「うかつあやまり」です。教科書やノートを机の端に落ちやすいように「うっかり」置いていた自分も悪かった、うかつだったと自分も謝ります。

校内生活でも互いに支え合い「うかつあやまり」の心を持ち、気持ちよく生活させたいと思います。

本校教諭の表彰

日 IN 越文化祭で本校教諭 安慶田 渉が駐ベトナム日本国大使賞を受賞しましたので、美術との出会いや美術に対する捉え方を取材しました。

【光の夜】 安慶田 渉
279mm×420mm



Q: 幼いころ、美術とはどのような出会いがありましたか。

A: 父親が美術科の教員であり「美術館散歩」と称して、よく京都市美術館やピカソの美術展に連れて行ってくれました。多くの作品を生で見、何とも表現することができない不思議な感覚があったことを今でも鮮明に思い出します。そのことが美術に対する原体験になったのかもしれませんが。とはいえ、幼いときには美術に対する興味はさほどなく足早に美術館を回り、外で父親を待っていることもありました。そんなときでも父親に「じっくり見なさい」と言われたことは一度もありませんでした。

Q: 受賞した作品に込めた願ひをお伝えください。

A: 受賞した作品は、約3か月かけて様々な濃さの鉛筆を使って描きました。コロナ禍で登校できない子供たち、また保護者の皆様、教職員に対し、自身のできることで少しでも明るいニュースを届けたいとの思いから制作に取り組みました。 ※作品は事務室前廊下に展示しております。